

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072900295		
法人名	社会福祉法人青壽会		
事業所名	グループホームくろつちの杜		
所在地	福岡県小郡市井上516番1	電話	0942-73-1123
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果確定日	平成23年5月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階
訪問調査日	平成23年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

従来、入居者の介護は職員が行うことが必然的であった。今年度は、行事を全て土曜日に開催し家族と併に職員が生活を支援することを意識して取り組んだ。また、昼食づくりを入居者のADLレベル低下により一緒にすることが殆どなくなり、職員が食事作りに追われる日々であったため中止し、その費やしていた時間をもっと入居者の生活支援の時間へと転換した。運営推進会議の中で家族からの「家族の不安な言葉」から家族会が本年度発足し家族会を2回開催できたことが今年度の最大の成果だと考える。また、入居者の個別ケアに対して、昨年はまともなカンファレンスを実施していなかったが、家族参加によるカンファレンスが確実に進んでいる。ホームからの外出が行事のみであったが、本体事業所へ散歩にいたり、入居者の役割をもってもらい、介護を行うしてから共同生活への視点に考えが変わってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内には、同法人の介護老人福祉施設やデイサービス事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、ケアハウス等が併設されており、福祉複合施設として多様な介護サービス事業を展開している。開設より8年が経過し、画一的なケアとならないよう個別支援の視点の確保や、家族との関係性を深める取り組み、また、職員の働きやすさやモチベーションの確保に向けたシステム作りにも取り組みながら、サービスの向上や活性化へと結び付けようと働きかけが行われている。法人としての連携は十分に活かしながら、地域密着型サービスとしての意義を職員が共有し、その人らしい暮らしの実現に向けたアプローチや、地域拠点としての活動の広がりが大いに期待できる事業所です。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の「地域とのコミュニケーションを大切にし、地域の発展のために努力を惜しみません。」を事業所の理念とし、地域で快適により安心して生活が継続できるよう努めている。	地域との関係性が示された法人理念及び「約束」(行動指針・コンプライアンスルール)を掲げている。会議や打ち合わせにおいて毎回唱和し、議題としても取り上げながら、浸透を図っている。23年度より理念に基づき、目標を作成していく事が決まっている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理念を事業所内に掲示し、職員会議で理念唱和を行い、理念の意義を再確認している。	地域住民の協力を得ながら、畑作りを行ったり、しめ縄作りの指導を受けている。地域の祭りや清掃活動への参加、また法人全体の行事を地域に案内する等の交流の機会がある。町内の温泉旅行へ参加したり、また、ボランティアや実習生の受け入れを行っている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会、民生員、各関係団体の視察を積極的に受け入れ、事業所の特徴や役割について説明を行っている	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、地域の代表者、市の職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。入居者状況の説明、活動状況の報告、意見、要望、助言などを受けサービスの質の向上に努めている。	今年度より、併設する小規模多機能型事業所と合同で開催されていた運営推進会議を、単独で開催するようになった。全家族へ案内を行い、参加しやすいよう土曜日に開催されており、時には入居者が参加することもある。現状報告や事故報告を行い、参加者からの意見を運営に活かせるよう取り組んでいる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点などは保険者に連絡を取り助言・指導を受けている。特に今年度は、認知症サポーター研修開催を通じて連携を密にとっている。	運営推進会議には、行政担当者の出席を得ている。また随時連絡を取りながら、情報共有を図ったり、助言を得ている。認知症サポーター養成講座の開催時にも、行政との連携を図っている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や勉強会へ参加し、可能な限り身体拘束を行わないようにケアを行っており、拘束のない介護を実践している。	法人として、身体拘束廃止委員会が設置されており、委員会での研修や検討を会議にて伝達し、職員間での共通認識を図っている。玄関の施錠に関しては、1、2階の対応が異なるが、運営推進会議等にて検討しながら、継続しての課題として捉えている。車椅子からの移乗がその都度丁寧に行われていた。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修にて高齢者虐待防止に関する研修を受け知識を深めている。虐待の発見が遅れ状況が深刻化しないよう、早期発見、早期対応に努めている。	

福岡県 グループホーム くろつちの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の研修や事業所での研修にて権利擁護に関する制度の理解を行った。実績はないが、必要時には活用できるよう研修を行っている。	これまでに権利擁護に関する制度について、活用に至った事例はないが、入居時にはパンフレットを配布する等、情報提供を行っている。法人として、外部研修に参加した職員による伝達研修が行われており、理解を深める取り組みを行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重説以外に、事業所のパンフレットや利用案内書を用い、納得していただけるよう説明している。また、退居後の生活支援に対しては特に家族ニーズが強く法人全体でフォローアップ出来る事を説明している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口を管理者としているが、職員以外にも第三者委員とし、民生委員にも窓口としている。その他、介護保険課、国保連等に苦情の申し立てができることを明記しており、契約時には十分な説明を行っている。	家族が参加しやすいよう運営推進会議を土曜日に開催したり、また、年2回、家族会も開催しており、意見や要望の収集に努めている。家族が意見を言い難いことを理解し、第三者委員の設置や関係機関の相談窓口を案内している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回程度のスタッフ会議や毎朝のミーティングにて意見や提案を出してもらっているが、日々、職員間の会話の中でも意見や提案を集約し、反映できるよう努めている。	グループホーム会議や全体会議を通じて意見を出し合い、運営への反映に努めている。職員会議や各種の委員会活動を通じて、情報収集や意見交換を行い、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にて、人事評価制度を導入しており、個々の努力や実績により評価されるシステムを導入している。半年毎に、自己評価、上司評価を行い、職員のやる気につながるよう、努めている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は、性別年齢の条件指定はしていない。福祉を志す方には幅広く間口を広げ、今年度より高卒者の採用も行っている。福利厚生事業の活用や職員懇親会の開催等で職員が生き生きと就労できるよう配慮している。	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。人事評価制度を導入し、また働きながらの資格取得を支援、評価し、正規採用につなげる等、モチベーションの確保に向けた取り組みが行われている。介護福祉士の資格に挑戦する際には、実技の講習会を開いたり、資格取得手当でも支給されている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の尊厳や人権について、法人の研修にて、周知徹底に努めている。	法人全体で、高齢者虐待防止や身体拘束廃止、権利擁護、倫理・コンプライアンス、認知症ケアについての研修を実施し、入居者の尊厳や人権についての意識を高めている。職員のストレスケアにも配慮し、休憩時間の確保等に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム くろつちの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では毎月研修会が開催されており、職員が知識や技術を学ぶ機会を設けている。研修参加時は、法人の会議にて報告し、研修の資料については、誰でも見れるようにファイルし情報の周知を図っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症サポーターメイト会での勉強会など、同業者との意見や情報の交換に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望時には見学や体験利用をすすめ、不安なく入居開始できるようにしている。入居初期は、入居者・家族の不安や心身の状況を知るために関わりを多く持つよう心がけている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学や契約時、面会また、電話連絡においてご家族の不安や思いを傾聴し、不安を解消できるように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者や家族の思いを確認し、希望に沿うようにサービスの提供ができるよう検討している。また、必要に応じて、他事業所の情報提供を行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の社会・生活背景を念頭に置き、ホーム内での役割をもち、共同生活者としての意識づけを行っている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が積極的に生活支援に関わる時間をもつため、行事等は全て土曜日に実施している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	閉じこもりがちなる方も職員が間に入ることで会話支援を行っている。また、行事やゲーム、レクリエーションをとおし、交流や談話の場を多く設け、入居者の誰もが楽しく関わりあえるようにしている。	隣接するデイサービス事業所やケアハウスとの相互交流を図りながら、馴染みの方との関係性の継続に向けた支援が行われている。家族との関係性を大切に、自宅周辺へのドライブに出かけたり、携帯電話の利用を支援している。	

福岡県 グループホーム くろつちの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	顔なじみの他事業所利用者へ面会に行ったり、地域行事へ参加する等して、関係が途切れないよう支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、施設や病院へ面会に行ったり、年賀状を送ったりして、関係を断ち切らないよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者、家族からの要望、意向を把握する為本年度は必ず家族参加のカンファレンスを実施した。また、職員は入居者、家族との会話や表情から汲みとるように努めており、介護計画に反映できるよう努めている。	本人、家族との日々のかかわりやカンファレンスを通じて、思いや意向の把握に努めている。アセスメント情報や個別記録からは、人物像や日々の暮らしの状況等、その人らしい暮らしを支援するための根拠となる情報が伝わりにくい。	記録様式の検討や職員個々の新たな視点を確認し、共有していくことで、現在の個別ケアへの取り組みが更に充実していくと思われます。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者、家族との日々の会話の中で知りえた情報は、基本情報や個別記録に記入したり、ミーティングにて共有している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ライフポートワークを使用し、定期的に本人やご家族、その他関係機関より情報収集している。また、利用中の会話や連絡帳、送迎時の家族との会話を通して把握するよう努めている		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族の課題やケアのあり方については、ケアカンファレンスやミーティング、伝言ノートを利用し検討を行っている。CMが提案するサービスに、本人、家族の意見を取り入れるようにしている。	ライフサポートプランをもとにした独自の様式を用い、介護計画が作成されている。家族も参加するカンファレンスの実施に取り組み始めるなど、関係者の意見や要望を集約しながら、本人本位の検討に努めている。	個別ケアの視点を持ち、計画を作成していることとする方向性が確認できます。今後は、職員のより積極的な作成への関わりも視野に入れており、気づきを共有しながら、持てる力を活かすことや、その人らしさへのアプローチへとつなげて欲しい。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や変化がバイタルサインの数値ばかり気になり生態レベルの変化にとらわれている。生活障害に視点を置いた、「疑問」が記録できるよう問題志向型の記録方法を今後は検討していきたい。		

福岡県 グループホーム くろつちの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況や家族の希望に応じて、近隣美容室の対応や買い物を行っている。また、毎月の状況を担当者から手紙での報告等を行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長・民生委員・老人会長や近隣住民に協力を求め生活支援を行っている。ボランティア団体等が積極的に生活支援に関わりがもてるよう職員が橋渡しをしている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要性に応じて、受診の同行や電話連絡にてかかりつけ医と相談をし、指示や助言を受けている。状態変化時はすみやかにかかりつけ医と連絡をとり、指示を仰いでいる。	運営母体となる医療法人との連携により、日々の健康管理や医療活用について、積極的に情報共有を図っており、適切な医療活用となるよう支援している。家族の協力も得ながら、希望する他の医療機関の受診が行われている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であるため、常時看護の視点で観察している。同一法人内看護職との情報交換を行い、緊急時に速やかに対応できるようにしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、ホームでの生活習慣、行動パターンを確実に申し送り、入院時の生活や介護方法の申し受けを家族とともに受け早期退院できるように連携を行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は、当ホームでは対応できないため、かかりつけ医からの今後の方針について説明を受け、その状況に応じた、病院又は施設入所を早期の段階から考えて対応している。	敷地内に隣接する同法人施設や医療機関との連携を図りながら、重度化や終末期への対応を行うことを、入居契約時に説明している。状況の変化に応じて話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、看護師による研修を実施している。また、緊急時のマニュアルを作成し定期的に研修を行っている。		

福岡県 グループホーム くろつちの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立合いのもと、消火、避難訓練を年間/3回実施し、緊急通報の際は、近隣の協力を得ている。	敷地内の同法人事業所とともに、年3回の合同避難訓練が実施されており、内2回は消防署の立合いの下、昼夜を想定して行われている。緊急時の通報先として、近隣住民の協力を得ている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・マナーについての研修を実施し、日頃から言葉使いや態度に注意をしようとしている。個人情報の保護については、研修に参加し、取扱いには十分注意している	個別の時間の流れを大切に支援に努めている。入浴時や排泄時の声かけや対応には特に留意し、自尊心や羞恥心を意識したかわりに努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりとした口調での声かけ、目線を合わせて寄り添い、じっくりと利用者の思いや希望を理解するように心がけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで、本人の希望や自己決定を尊重している。希望の時間に入浴や散歩を行ったり、食事やおやつを時間をずらしたり、その日の体調等に応じて実施している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的な整容動作は入居者の生活習慣に沿って行っている。外出の頻度を多く持ち、整容に対する意識付けを行っている。また、行きつけの美容室に行っている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、給食から三食提供を受けている。今年度は1回/月の外食会を実施している。	母体法人厨房での調理となり、ゆっくりとした食事風景と、食後もすぐには片付けず、のんびりと会話を交わしながら余韻を楽しんでいた。入居者の希望あわせた外食会も実施している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により栄養バランスのとれた食事提供を行っている。状態に合わせた食事の形態や量の調整を行っている。定期的な体重測定や血液検査も行われ、結果に基づいた医師からの指導を受けている。		

福岡県 グループホーム くろつちの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがいをを行い、口腔清潔に気をつけている。口腔内に異常が発見されれば、訪問歯科の受診している。同法人内の口腔機能向上委員との情報交換を行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンの把握に努め、声かけや誘導を行い、失禁とならないように支援している。日常的にトイレ誘導の方法や排泄用品が本人に適しているか等、家族と相談したり、職員間で意見交換をしている。	排泄記録表により、日々の状況の把握に努めながら、定時誘導及び個別の誘導にて、トイレでの排泄支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、レクリエーション等、適度な運動と十分な水分提供を心がけ、排泄の循環が良くなるよう努めている。排泄記録表にて排泄間隔を把握し、家族とは連絡ノートにて共有し、便秘とないように気をつけている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じた入浴を行っている。希望があれば仲の良い方同士で入浴をして頂いたりしている。入浴拒否がある方については、ご本人に適した声かけや誘導方法を検討し、スムーズに入浴が行えるように支援している。	希望や状況に応じて、柔軟な対応が行われており、少なくとも週2回は入浴できるよう支援している。町内会の温泉旅行へ参加する等の支援も行われている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や生活習慣に応じて、昼寝や夜間の対応を行っている。自宅に近い環境に整え、入居前に使用していた物品を可能な限り家族に持ち込みを依頼している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の処方箋をファイルに備え、職員が確認しやすい場所に、服薬マニュアル、服用時間の一覧、副作用の一覧を掲示し、服薬介助前には確認するようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴や趣味・習慣等をもとに、レクリエーションを実施している。食器の後片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除や花を活ける等能力に応じ、それぞれの役割を持って頂いている。		

福岡県 グループホーム くろつちの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>地域行事や地域の行楽地への外出の支援を月/1回以上行っており、毎回ご家族への参加を呼びかけ、外出支援を行ってもらっている。今までが、全て職員が行っていたが今年度より家族参加型の外出としている。</p>	<p>庭での外気浴や周辺の散策にて、戸外に出掛けている。毎月、外出・外食行事を企画し、家族の協力も得ながら支援を行っている。隣接する同法人事業所へ出掛け、馴染みの方との交流を行っている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の所持・金銭管理はホームでは行っていない。買い物等は立て替え金として、入居者に買い物時手渡し、購買、金銭受渡しを行うようにしている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話を希望する際は、ホームの電話を利用している。不穏や不安になられる方には、家族へ連絡をし声を聞くことにより心身の安定を図っている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者と職員が書いた書初めや貼り絵、手芸作品、季節の草花や季節に合った物等を飾ったりしている。また、雰囲気に応じてBGMを流したり、日差しの具合を調整したりと、居心地のよい空間作りに努めている。</p>	<p>ゆとりある広さを持つ共用空間は、明るく、開放感がある。食卓テーブルやソファ、和室スペース等、それぞれの方にとってのくつろぎの場所がある。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや和室で自由に過ごしていただけるようにTVやゲーム等を置いている。また自然と会話が弾むように、その日の新聞やニュース・広告等を職員が紹介しコミュニケーションを図っている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベットの向きや、電化製品の持込等、入居前に使用していた家財道具を持ち込み、不安や戸惑いがないように配慮している。</p>	<p>トイレや洗面台が備え付けられた各居室には、家族の協力も得ながら、使い慣れた家具や大切な品々が持ち込まれており、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の能力を活かし、家事手伝いや趣味活動等を支援しており、混乱や失敗がないよう、また、混乱や失敗をしても自尊心を傷つけない対応に徹している</p>		